

令和元年度 学校評価結果公表シート

学校法人廣瀬学園

認定こども園

東よさみ幼稚園

令和元年度の幼保連携型認定こども園学校評価として、教職員自己評価及び学校関係者評価を実施致しました。

教職員自己評価においては、教職員一同、園全体、学年、クラス、自己自身を改めて客観的に見つめ直すことにより、更なる自己研鑽を目指すよい機会となりました。

今年度も学校評価の結果を活かし、幼保連携型認定こども園として教育保育の充実、教職員の資質向上に努め、乳幼児の豊かな心身を育てていきたいと考えています。

I. 保育・教育目標

保育教育目標

清く■かがやく瞳

正しく■ゆたかな心

かがやく瞳にであいたい。ゆたかなところを、そだてたい。

たくましく■のびゆく身体

保育教育方針

「自立心・自主性の育成（生活習慣の充実と安心安全に努める）」

- ・ 考えられる子
- ・ できないと思ってもあきらめず最後までやりぬく子

保育教育の特徴

1. 健康な心身をつくる。(体育遊び、乾布摩擦を通して)
2. 人とかかわる力を養う。(異年齢保育や、先生との交流を通して)
3. 自然や社会の身近な環境に親しむ。(栽培や飼育活動や行事を通して)
4. 豊かな感性、創造力、表現力を養う。(めざましあそび、音楽、造形活動を通して)
5. 「6つの心」が自然と身につくように育てる。(社会・言葉を通して)
 - ・「おはようございます」という 明るい心
 - ・「はい」という 素直な心
 - ・「すみません」という 反省の心
 - ・「わたしがします」という 積極的な心
 - ・「ありがとうございます」という 感謝の心
 - ・「おかげさまで」という 謙虚な心

II. 今年度の重点目標

幼保連携型として乳児（0～2歳）の育ち、すなわち生活習慣の充実から、幼児（3～5歳）の教育。自ら考え行動し、表現できる子どもへの育ちの育成に務める。また6つの心の育ちから、自ら考え行動できるようにすること、自主性と自立心を身に付けさせることを重点目標とする。

Ⅲ. 評価項目と取り組み状況

評価項目		具体的確認項目	評価	取組状況
1	教育方針・目標	園の教育保育目標や方針を共有することができるか。また、そのためにどのような取組がなされているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育保育目標や方針に基づき、教育保育要領の理解を深め、伸びやかに認定こども園教育の実践ができるように、職員間で話し合いを重ねている。(職員会議、学年会議、リーダー会議) ・ 行事ごとの会議の際も、ぶれない目標・方針のもと、変化する社会や保護者の考えに適応し実践するよう取り組んできた。
2	指導計画の作成と評価	保育カリキュラムの評価・反省を行い、日々の実践に活かし取り組んでいるか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週案は、学年毎に毎週会議を行い作成し、教師間において共通理解を図っている。また異学年間においても共通理解ができるようなファイリングを実践し、園全体として必要に応じて会議で報告相談し、共通理解に取り組んでいる。 ・ 定期的にティーム保育を行い、担任が入れ替わり保育を行うことで教師と子どもの学びや刺激になるよう、また園全体で一人ひとりの子どもをみつめ共通理解を図れるように取り組んでいる。 ・ 定期的に異年齢交流を行い、異年齢の子どもが関わる中で相互に思いやり、いたわりの心や親しみ、尊敬の念が育まれるように取り組んでいる。 ・ 保育内容・疑問・反省などは、日々の職員会議において話し合いを行っている。さらに園長主任等に直接相談する場合も多く、その際は適宜アドバイスや会議を行い、日々の実践に即座に活かしている。
3	指導と関わり	乳幼児個々の興味や関心、能力に応じて活動することにより、成長に応じた関わりがなされているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育遊びや造形活動などの動的保育及び音楽などの静的保育など、静・動の保育を総合的に実施し、創造的な活動を実践している。 ・ 乳児においては探索活動が充分に行えるよう環境を整え、そこから生まれる探求心を育ていけるよう戸外あそびや園外散歩も積極的に行うようにしている。 ・ ネイティブ講師によることばの時間を設け、国際性の育成を実践している。 ・ 教師と園児が一緒に活動する中で、園児の主体的な活動を展開できるよう、個々の興味や関心に共感し、支え合い、学びあいを実践している。

				<ul style="list-style-type: none"> 園児を連続的に成長する1人の個人として捉え、幼小と継続して生きぬく力を日々の成長の中で育成し、小学校への継続教育を推進しスムーズな移行を実践している。特に年長児の教師については、小学校との交流会や会議を行うことで円滑な接続について意識し取り組んでいる。
4	教育環境の構成	興味や能力に応じた活動及び異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成ができていますか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 園舎全体を教育環境の一つとして捉えていること、園庭の遊具、室内の自由遊びのための遊具を追加導入するなど、園児の興味や関心に応じて、安心して好きな遊びが行えるように環境作りを実践している。特に乳児においては安心できる環境作りに重点を置き、消毒の徹底などに気を付け安全を最優先に努めている。 異年齢の交流を定期的に行うことで違う年齢の子にも興味を持ち、自然と交流が生まれ関われるように、教職員が意図的に乳幼児に言葉がけをし親しみをもてるようにしている。 園内のいたるところ(掲示板、トイレ階段)に園児の作品を展示することにより、様々な刺激をうけるよう配慮している。
5	研修・研究への取組	研修、研究への取組が十分に行われているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 音楽・絵画・造形・体育など講師を招き随時公開保育や園内研修に取り組んでいる。公開保育を行うことで、自身の保育と向き合い、また見つめ直す機会とする。また他の職員の保育から刺激を受け、反省会で気づきを伝え合うことで園全体としての教育保育の方向性の再確認、教師の向上に努めている。 外部研修として、多岐にわたる分野の研修会に積極的に参加している。
6	安全管理体制の整備	安全管理の体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取組を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練(火災と地震)年12回、警察署交通安全講習年1回を行い、園内避難訓練を随時実施し緊急時に備えている。 教職員は、年に1度救急救命講習を行い普通救命講習修了証を取得。AEDの設置。 毎年、自主的に不審者侵入者対応の実践的な防犯講習を実施している。 来園者の園内立入証の着用、防犯カメラ、防犯設備、非常通報装置を設置している。 地域の緊急情報にも速やかに対応し、保護者に手紙やメール配信等を通じて周知徹底させている。

7	衛生管理体制の整備	衛生管理の為の体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取組を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手洗い、うがいを徹底実践し、各所に消毒液の配置などを行い外部からの来園者にも奨励している。 ・ 各部屋に空気清浄機・消毒液を設置し、ウイルス対策にも力を入れている。 ・ 嘔吐・下痢時の対応はマニュアル化しており、嘔吐セットは常時利用できるようにしている。 ・ 給食など食品を扱う際には細心の注意を払い、マスク・手袋の着用を実践している。
8	地域の人々、自然との関わり	地域の人々や自然との関わりを積極的に持つことができているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣小学校や中学校との交流を実施し、社会への関わりを促進している。 ・ 老人ホーム、デイサービス慰問を積極的に実施し、大変歓迎されている。また敬老会に賛助出演や様々な園の行事において老人会の観覧など、相互交流を実践している。 ・ 都会の中にもありながらも園の中にある樹木や野菜の苗を育て自然との関わりを持ち、土や水、実りなど肌で感じるよう取り組んでいる。また、収穫したものをういクッキングを行うことで食への興味関心を深め、感謝の気持ちに繋がるようにしている。落ち葉や木の実を造形や絵画に利用するなど、園児の成長において自然との関わりを重視している。トマトの苗植え、さつまいもの苗植え。クラス毎に野菜の苗植え。

<評価の基準>

A	十分に達成されている	B	達成されている	C	取組はされているが十分ではない	D	取組が不十分である
---	------------	---	---------	---	-----------------	---	-----------

IV. 今後取組むべき課題

1	指導計画の作成と評価	<p>人とかかわる力を育てる『協同して遊ぶ経験』など教育保育課程の工夫を実践できるよう、これまで以上により具体的な保育カリキュラムの構築に取り組んでいきたい。</p> <p>引き続き、考える力を養うなど園児の主体性を育ていけるような教育保育実践を継続的に行い、次の学年へ円滑な連携ができるよう情報の引き継ぎにも重点をおきたい。</p> <p>特別な支援を必要とする園児に対する個別の指導計画においては引き続き一人ひとりの実態把握をしっかりと行い、計画を立てると共に評価反省を行い、次年度への引き継ぎに重点を置く。</p>
---	------------	--

2	研修・研究への取組	園外の研修については、教師が主体的に、自分の苦手とする分野や興味のある分野について多岐にわたる内容を受講したあと、職員会議でレポートなどを作成回覧し、教職員間で学びを共有している。しかし、教職員間での学びの共有をより強固なものにするために、園内研修において発表や意見交換の機会を設けるなどの工夫が必要であり、時間の工夫を行い今後も続けていくようにする。このような発表の機会は、発表を聞いている教職員の学びを促すだけでなく、発表者自身の学びを向上させることが期待できるので、日常の業務において時間的制約はあるが進んで取り組む。
3	安全管理体制の整備	避難訓練、交通安全講習、具体的な防犯訓練の実施、救命救急講習の受講は引き続き実践していくが、さらに、大型地震や津波などにも備えた緊急時対策について地域と連携し、より緻密な計画を立てたい。 _
4	保護者に対する情報発信	保育目標や内容、子どもの活動については、園便りやクラス便りなどの手紙、そしてインターネットのホームページなどを活用し保護者に対して情報を発信している。しかし紙面の都合により保育に対する思いが伝えきれていないのも現状である。保護者からもっと幼稚園の保育について伝えてほしいという要望もあり、行事や参観で表出されている部分だけでなく、それにいたるまでの取り組みや、活動のねらいを手紙や保護者の集まる時、講演会を設けるなど、これまで伝えきれていない部分について発信していく必要がある。

V. 学校関係者の評価

令和元年度は幼保連携型認定こども園として、0歳から5歳の異年齢交流も盛んに行われたようで、特質を活かし、充実向上してきている。また、地域に開かれた認定こども園として密接な結びつきを大切にしていた教育保育を行っている。